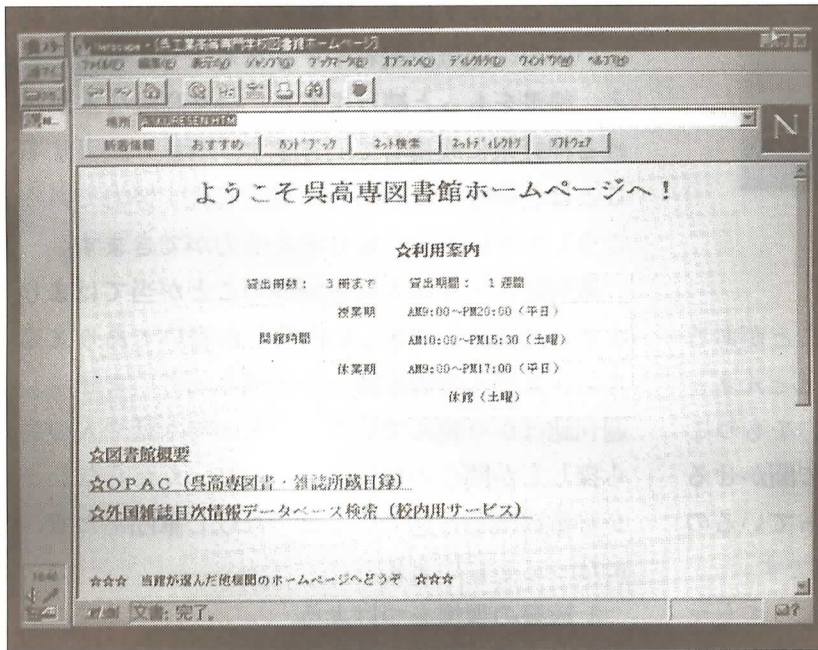
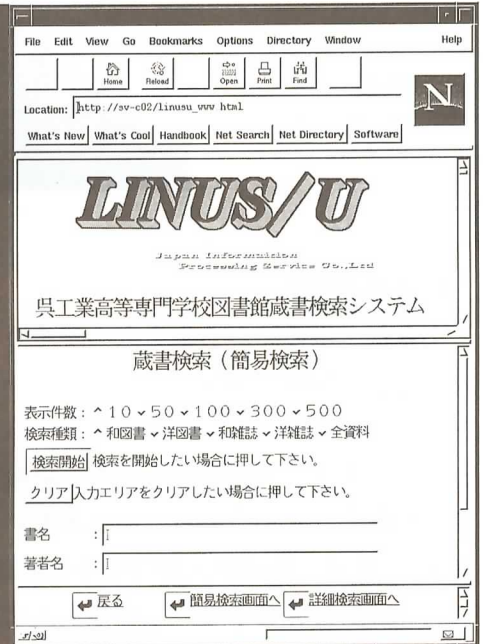


図書だより

〈第35号〉
 平成8年10月31日
 呉工業高等専門学校
 図書委員会



呉高専図書館ホームページ



OPAC 画面

目 次

〔巻頭文〕

「読書と脳への作用」 校長 長町 三生 2

〔読書感想文〕

歴史 「ひめゆりの塔」 A 1 松尾 涼香 3

文学 「螢川-第78回芥川賞受賞作品」 C 2 木村 美穂 4

政経 「ごみ処分」 E 3 野田 俊彦 5

〔随想・読書雑感〕

「新版 ナガサキ-1945年8月9日」 M 4 長松 良治 6

「探偵物語」 C 5 西田 正樹 6

〔お知らせ①〕

新図書館システムについて 図 書 館 7

〔新任教職員の随想〕

「これからの情報処理」 電気工学科 植田 義文 8

「私と読書-ある作家とのつきあい」 会計課出納係長 森原 良治 9

〔お知らせ②〕

呉高専 OPAC について 図 書 館 10

〔編集後記〕 図書館長補 田邊 達雄 11

〔新着図書10選〕 12

巻頭文

読書と大脳への作用

校長
長町 三生

1. 大脳の特徴

小さな子供の時から本を沢山読んだことがある人ほど、140億個の細胞をもつ大脳がどんどんネットワークを広げ、沢山の情報を考える力をもつことができます。3歳頃に親が本を読んで聞かせることが重要だというのはこのことをいっているのです。「なぜ」を頻発するのもその証拠です。

マンガが好きで小さい頃から大人になってもマンガばかり読んでいる人がいますが、マンガは大脳が努力しなくても分かりやすいので、大脳のなかのネットワークが小さく、分かりやすいもの（電気）しか流さない性質を持ちますので、少しむずかしい本を読んでもその電気を通さない（受けつけない）大脳になってしまいます。これを“マンガ頭”といいます。逆に努力してむずかしい本を読む努力をしますと、ネットワークが拡がりむずかしい内容を理解するネットワークに変化していきます。これが考える力を育て創造力をつくります。

しかも記憶は1カ所に蓄えられるものではなくて、沢山の読書をする大脳の広い範囲にわたってメモリ機能を広げる力が生まれます。記憶力がよくなるのはこのような作用によるものです。

2. 頭が痛くなる

マンガばかり読んでできた“マンガ頭”は、学校のテキストを読むと頭が痛くなったり授業中に眠くなったりしますが、それはむずかしいもの（電気）をネットワークが通さないからです。

そこで少しずつ本を読む努力や講義を聴く努力をし始めますと、強制的に電線に電気を流すことと同じことですので、大脳ネットワークはむずかしい内容の電気が流れやすくなるように性質を変え、読書をもっと続けると、益々高級な本が読める神経系に成長していきます。つまり読書することは、神経系に強制的に電気を流す努力であり、こうして大脳がよくなり考える力ができます。

週刊誌が好きな人にも同様のことが当てはまります。週刊誌もやさしい内容しか書いてありませんし、芸能人の噂話しか掲載されていません。週刊誌ばかり読んでいると、人の噂話や人のあら探ししか関心のない大脳になり、くだらないテレビ番組ばかり見ていると“たけし軍団あたま”になってしまいます。

3. 読書の習慣をつけよう

自分の頭は自分の身体の一部です。それを良くするかしないかは、自分の努力に関係します。“マンガ頭”や“たけし軍団あたま”を自分の努力で“創造的頭”に変えましょう。そのためには、

- ①やさしい本から少しずつ読む習慣をつけよう。電車の中、休み時間、ベッドの中などで少しずつ本を読んで頭を慣らすことを始めよう。
- ②次に、小説などのまとまった内容の本を読んでみよう。これによって推理したり想像する力が育ちます。
- ③新聞の社説を読もう。論理の展開の仕方、何を主張し自分はどう思うかを考えてみよう。
- ④科学や技術の本を読もう。立派な高度技術者になるためには、やはり科学技術の知識が必要です。

読書が好きな人は、単車を乗ったり喫煙したり他人をいじめたりすることに無関心です。それは読書によって考える力が育っているからです。

毎日少しずつ読書する習慣をつけよう。

読書感想文

歴史

「ひめゆりの塔」

(石野 径一郎 著)

A1 松尾 涼香

太平洋戦争末期。米軍は沖縄に上陸しました。そんな中で、女学生や職員で結成された「ひめゆり部隊」は看護要員として動員され看護活動にあたりますが、日に日に戦局は厳しくなっていくばかりです。

限られた食べ物、毎日のように投下される爆弾。外を歩けば死体が山のごろごろと転がり、米軍に捕まるくらいなら、と集団自決する人々、そして身体の激しい痛みには耐えられず自殺してしまう兵隊さん——。「ひめゆり部隊」はそのほとんどが今の私と同じくらいの若い女の子でした。そんな彼女達は、その楽しかったはずの青春の日々に、こんなあまりにもひどい光景を見て、一体何を感じ、何を思ったのでしょうか。私なら、こんな世界に絶望してしまったに違いありません。彼女達も、いつ自分に爆弾が落ちて死んでしまうかわからないぎりぎりの毎日を生きていくのは、すごくすごくつらかったと思います。それでも彼女達は一生懸命兵隊さんの看護を続けました。そんな姿に、私は心を打たれてしまいました。

そしてついに最後の日——。米軍に包囲され、脱出する機会を失った彼女達は、集団自決をしてしまいます。彼女達の青春は、はかなく散っていききました。「ひめゆりの塔」はその最後の地、沖縄県糸満市に建てられました。

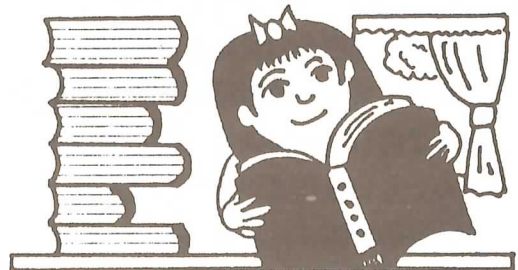
この集団自決をしてしまう所を読んだとき、私は彼女達の命を奪った戦争が憎くて、くやしくてくやしくてたまりませんでした。もう二度とこんなことは起こってほしくありません。しかし、今現在も世界のどこかでは戦争や紛争が繰り返されています。なぜ人間は戦争を続けるのでしょうか。

そしてどうしたら戦争を永遠になくすことができるのでしょうか。それは、私達人間の一人一人が、人間が生まれたときから持っている権利、人権を守ることにあるのではないかと思います。お互いに認め合い、思いやり、愛すること。これらが、「平和」につながっていくのではないのでしょうか。

私は戦争を知りません。しかし、今からほんの50年ほど前には、確かに信じられないくらいひどいことがあったという事実をちゃんと知り、考え、その戦争のせいで多くの人達の命が奪われてしまったことを忘れてはいけないと思います。

この本を読んで、命とは何か、平和とは何かを考えさせられました。そしていつの日か、「ひめゆりの塔」に行き、彼女達に会ってみたいです。

読書で知識を
広げよう



文学

「螢川」 (第78回芥川賞受賞作品)

(宮本 輝 著)

C2 木村 美穂

この作品は、第78回芥川賞受賞作品ということでしたので、どのような点で優れているのか楽しみながら読みました。

話自体は決して長いとはいえない短いものですが、情景の表現がそれに一番当てはまる言葉をそれぞれ選んでいて、情景を思い浮かべることが安易なことで、こういう所が優れていたのかなあと思いました。また、主人公の少年竜夫が思春期で、その竜夫が考え悩む事も巧みな言語表現が使われていました。

この小説で最も盛り上がる場面はやはり最後の場面「いたち川」の遙か上流で降った螢の大群の絢爛たる乱舞の場面ではないでしょうか。この場面について解説者は「暗い闇が口をあげ、螢が糸をひいてとんでいる。作者はこの幻世界へ読者をいざなっておいて冷たく筆をおく。」と書いていましたが、私の感じたことも全く同様のものでした。幻想的な螢の群がる世界。そこへどンドン入り込んでゆく私。あともう少し、もう少しでたどり着けると思った瞬間、夢から目が覚めたようにぶつりと途切れてしまうのです。

作者はなぜ幻世界で冷たく筆をおいたのでしょうか。作者は、読者を幻世界まで連れ込んでおいて突然消えてしまい、読者は行き場を失くしてしまう、そんな終わり方を作者は望んでいたのかもしれない。もしも作者がそれを望んでいるとしたら、これは暗い闇の世界への入口、解説者の言う、暗い闇の幻世界へのいざないだと思います。

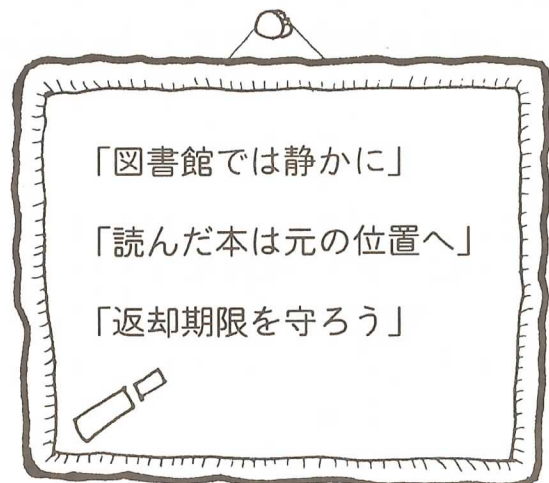
もう一つのこの作品の特徴として、主人公の竜夫について上げました。確かに、思春期の少年の心がどきっとするほど、生々しくとらえられていて、共感できる点もありました。しかし、級友の死のとらえ方については疑問が残ります。思春期

は傷つき易くてもろい時期のはずだから、あんな風に受け入れられるとは思えません。

作者は人の生より死の方に興味があるようです。しかし、死に対しての執着心はあまりないのではないのでしょうか。川の三部作の中の残り二つのうちの一つ「泥の河」においても、人の死に主人公は直面しています。しかし、あまりその事について書かれていませんし、その後のストーリーの展開に全くと言ってもよいほど左右されていないと思いました。

作者はなぜこれほど人の死に直面する主人公を描きたかったのか不思議でなりません。

この本は誰もが経験する思春期について書かれたものです。この思春期を経験した者として、共感したり、感動したりするものがこの本にはありました。しかし、作者の一番言いたいことは、もやもやしていて私にはよく分かりませんでした。



政 経

「ごみ処分」

(津川 敬 著)

E 3 野田 俊彦

世の中が便利になり、豊かになるにつれて、その量も種類も増加する一方の「ごみ」。バブル全盛期には何かと問題にされた「ごみ処理」「産業廃棄物」という言葉も、最近あまり耳にしなくなった。しかし、問題は決して解決していない。むしろ、私達の目の届かない所で、状況はさらに悪化している。それを知るのに、幸いにも今年出版された「ごみ問題」の本が入手できたので、それを読んでみた。

予想通り、というより、何も状況は変わっていないと言った方が正解であろう。処分場の能力の限界、産廃の不法投棄、ダイオキシンの発生、リサイクル率の低さ、等々問題は山積みである。中でも腹立たしかったのが、産廃の不法投棄である。これは、過疎に悩む農村や、離島などで多く起きている。都市部に暮らす私が言ったら怒る方がいるかもしれないが、都市で多量に発生した産廃が、全く無関係の所に処理されるならまだしも、山のように積み上げられ、悪臭を放ち、景観を損ね、有害なガスを発生しているのである。都市で発生したごみが、東京や大阪のようにその沿岸に埋立てられ、結果公害が発生したというのなら、まだ話は分かる。利益を得られないにもかかわらず、後始末だけさせられるというのは、いささか理不尽である。力の弱い所に、後始末をさせれば良いという考え方は、日本のあらゆる組織の体質なのだろうか。沖縄の基地問題もそうであった。いままでがおかしすぎたのであって、島民が怒るのも無理はない。また、問題への反応が遅い行政にも問題があると思う。日本は、先進国の中で最も反応が鈍い国であると思う。何か問題が発生した時に、手続きがどうか、責任範囲がどうか言っていないで、まず行動が取れないものだろうか。

残念な事である。

話はごみ問題に戻るが、そもそもごみを出さなければ、処理をしなくてもよいわけで、リサイクルという考えが出てくる。最近リサイクル法が話題になったが、成功させるためにはさらに制限を強化し、強制力を持つものでないといけないと思う。しかし、反応の鈍い日本が、やっとりサイクル強化に向け動き出したというのに、各飲料メーカーから1リットルや500ミリリットルのペットボトル飲料の発売は残念である。会社である以上、利益を上げなければならないのは分かるが、メーカー側の「小さなペットボトルに入ったミネラルウォーターがよく売れたから。」というコメントにはがっかりさせられた。メーカーはリサイクル強化を計るとしているが、ごみが増えるのは確実であろう。本当にごみを減らしたければ特殊用途を除き、ペットボトルを廃止すればよい。調味料等も含めて、計り売りを復活させてはどうだろうか。かなり不便にはなるだろうが、昔はそれでやってきたのだから、今でも出来ない事はないだろう。計り売りでないものには、預り金制度を導入すればいい。急に変えるのが無理なら少しずつでもいい。今後の行政に期待しようと思う。

ごみ問題はかなりリスクの高い問題である。しかし、後々の事を考えると、むしろごみを多量に発生させる現代の生活をする事の方が、リスクが大きいと言えるのではないだろうか。



随想・読書雑感

「新版 ナガサキー1945年8月9日」

(長崎総合科学大学平和文化研究所 編)

M4 長松 良治

みなさんは長崎の惨状を知っていますか。

修学旅行で長崎へ行って見たり聞いたりした人もいるでしょう。

ここでは私達の知らない長崎の姿が見えてくると思います。

長崎は古くから貿易で栄え、キリシタンの多い土地でした。戦争中には港は要塞化され、戦艦武蔵などが建造されました。

そして1945年8月9日、プルトニウムを用いた原子爆弾「ファット・マン」を搭載したB29がマリアナ諸島のテナアン島を飛び立ちました。行き先は第1目標の小倉。

だがその日、第1目標の小倉は断続雲におおわれており、そのため目視爆撃ができず、間もなく高射砲の迎撃が始まったので、小倉を断念して第2目標の長崎へとむかった。長崎上空に達した時、爆撃手が三菱長崎兵器製作所をとらえ、11時02分爆弾を投下した。

しかし、最近になって原爆投下時刻は10時58分だということです。この時刻はアメリカにある資料の中でわかったことです。私はこの4分の違いを時差のためだと思っています。

ではこの原爆投下後、人々はどのように長崎で生き、被爆者として生きてきたのでしょうか。ここで私は永井隆という人物を紹介します。

彼は島根の生まれで、医者をめざして長崎へ来ました。医者になった後、彼はキリスト教に入信し、物理的療法(レントゲン)を専門にし、結婚もしました。

そして8月9日のあの日、彼は長崎医科大学で被爆し、彼の妻は自宅で爆死しました。その後、彼は自宅でロザリオを見付けます。このことは、

歌や映画となりました。彼は1951年に死ぬまで、如己堂という2畳1間の家で、被戦平和のためにあの日の出来事を書いていきました。

私は彼の人生をテレビで知りました。戦後の彼の苦しみを知り、そして生きる希望を捨てない生き方に心をうたれました。

長崎に落ちた1個の原子爆弾が、長崎の運命を変えたのです。このことを私達は心に深くとめ、2度とこのようなことがないようにしていかなければいけません。これが私がこの本を読んで感じたことです。

「探偵物語」

(赤川 次郎 著)

C5 西田 正樹

近くで子供の遊び声がきこえる。とてもたのしそうだ。思えば自分にもそんなころがあったのだな、と思った。自分は、読書感想文が大キライだ。ある本について自分が、ここで「あーでもない」「こーでもない」といったところで、何も感動などできないからだ。同じ本を読んでも、それぞれそれについて思うことは、十人十色なのである。それをふまえた上で書きたいと思う。

この小説は、映画にもなっているので、よく知られていると思う。かなり昔の小説であり、はじめて読んだのは、中学のころだったと思う。昔に読んだ小説をもう一度、読みなおすというのは、使い古しの教科書をひろげるようで、なにか懐かしく、それでいて、一度読んだはずであるのに新鮮さを感じさせる。この物語は、探偵と女子大生とのやりとりを書いたものだ。話の内容については、ここでは触れないが、赤川次郎のえがく探偵や、刑事の像は、ほとんどがかっこいいものでは

ない。着ているスーツはぐちゃぐちゃ、あごには無精ヒゲ、住んでいる部屋は、ワヤクソ……と、第1印象は、かならずといっていいほど悪く書いている。読み手に親近感をあたえるためなのだろう。または、赤川次郎自身が、そんな探偵になりたかったのだろうか。そして、小説の中の話がすすむにつれ、「カッコわるいが、やることはカッコええ」という感じにもっていく。これが赤川次郎の探偵である。映画の「刑事コロンボ」のコロ

ンボにも似ているのだが、一つ、大きなちがいがああると思う。赤川次郎によって描かれた探偵は、カッコはブサイクのくせに、いつも恋に落ちていくのである。それも若く魅力ある女性とばかりだ。すこしこれが気に入らないことだ。自分の友人に、この赤川次郎の描く探偵によく似たヤツがいる。M好S郎君だが、けっしてこの探偵のようにモテたことはない。それが現実だ。

新図書館システムについて

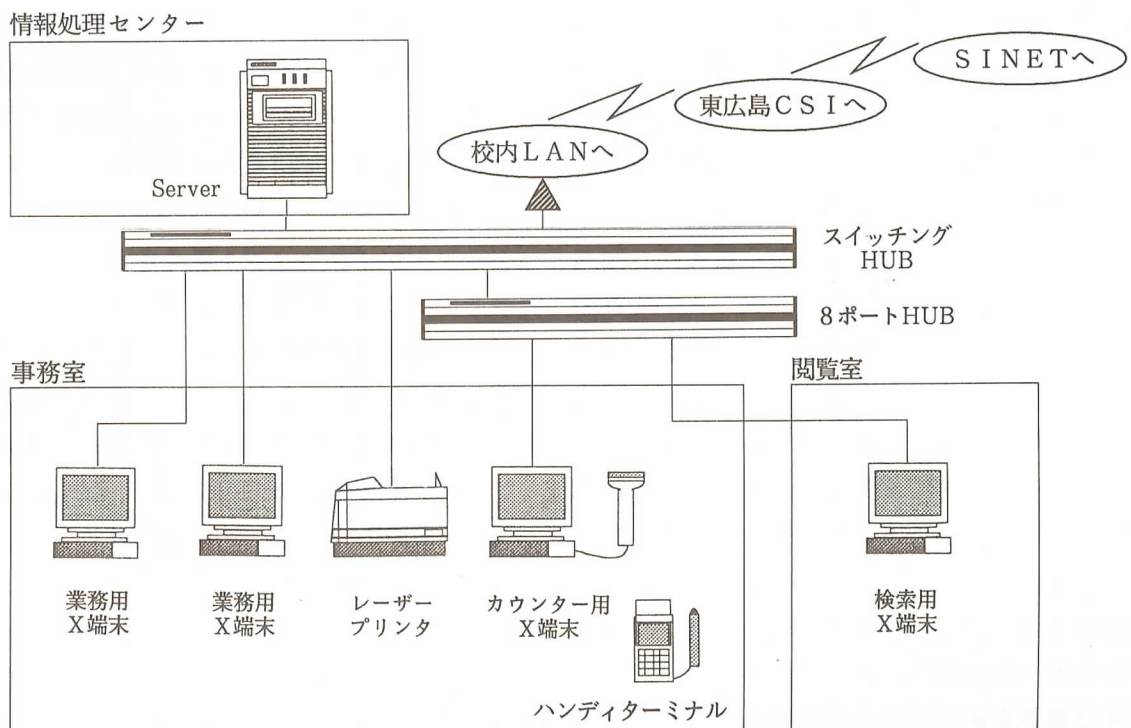
今年度より、図書館のコンピュータ・システムが変わりました。

新しいシステムでは、校内LANをはじめ、学術情報センターなどとインターネット接続を実現しています。

今後は、図書・雑誌の目録業務は学術情報センターのオンラインによる「総合目録データベース」形成に参加し、同時にローカルにも同様な高品質なデータベースを作成することになります。これにより、全国の高专、大学を対象とした図書・雑誌の所在情報検索や相互貸借業務において、「総合目録データベース」を利用することができます。

なお、蔵書ラベルと図書利用票はバーコード化し、新たに作成、貼付しました。これにより、貸出手続き時のリードエラーがほとんどなくなりました。

構成図にありますように、閲覧室にも検索用X端末を備付けていますのでGUI環境での検索を試して下さい。



新任教職員の随想

「これからの情報処理」

電気工学科 植田 義文

巷にはインターネットという言葉が氾濫しています。もう既に自分でパソコンを持ち、ゲーム、学校の授業の予習・復習あるいはパソコン通信、さらには、ダイアルアッププロトコルによるインターネット接続を実行している者、これから試みようとしている者などコンピュータに興味を持っている呉高専の学生さんも多くいると思います。書店に立ち寄るとパソコン関連の雑誌が目にとまります。以前に比べ、インターネットに関する記事の増加に驚かされます。



インターネットの普及により地球が益々小さくなってきています。簡単にホームページの開設が出来るソフトの普及により多くの人々が情報を発信しています。これまでは情報を入手しようとするれば図書館に出かけて文献の検索をすることが必要だったと思います。これからも図書館の存在は従来と同じように意義があると思います。活字を通じて学ぶことは多くあると思います。専門書を読むためにはやはり図書館の蔵書にたよる必要があると思います。専門分野の立場から言えば、個人個人によって状況が異なるため一人一人がそれぞれ自分にあった本を参考文献として選択すればよいことだと思います。今自分が何を求め何を解決したいかがはっきりすれば自ずからそれに対するアクションも決まってくると思います。また、高専の学生の年齢層からすると、自分の生きる道しるべとするために良書を通じて教養を深めることも大切だと思います。そのために図書館を利用することも大いに結構なことだと思います。

従来は書物を通じてからの情報の入手が大半を

占めていたと思います。マルチメディアという言葉に代表されるように、現代社会において情報の発信方法が多様化しています。これからは情報へのアクセス方法が多様化してくるため自分なりのデータベースへのアクセス方法を確立しておく必要があると思います。何をどこから入手するか。逆説的な言い方かもしれませんが、情報過多な状況の中でこれからは何を捨て去るかを早く判断することが無駄な時間を省くことにつながると思います。いかに情報を捨て去るか、無駄をなくするか。

これからの情報化がどのようなになるか興味を持っている学生も多いと思います。これに対して正確に答えることは非常に難しいと思います。多くの関連した本が出版されていますが、この業界は非常に目まぐるしく変化しているため簡単に説明することは容易ではありません。これからの指針を与える本として1冊掲げるならば、マイクロソフト社長であるビル・ゲイツの書いた本「The Road Ahead」を一度は読んで欲しいと思います。ASCII出版社長 西和彦による訳もでていますが原著で読んで欲しいものです。自分の英語能力がどれくらいあるかのチェックにもなると思います。また、原著にはCD-ROMが添付されているのでマルチメディアの勉強にもなると思います。この本にはアメリカのベンチャー精神が沸々と感じられます。日本ではとかく育ちにくいといわれる未知へのチャレンジ精神が感じとれます。ビル・ゲイツがマイクロソフト社を創設した年齢は二十歳そこそこのことです。高専の高学年の年齢に近い。学生諸君も色々なことに興味を持ち、自ら進んでそれぞれの個性を伸ばして欲しいものです。君たちは無限の可能性を秘めているのだから。ちなみに、原著は5,000円弱で購入可能だと思います。私は、大学の生協で原著を見つけました。

最後に、適切な情報にいち早くアクセスすること。自分なりのデータベースの確立・情報の整理の大切さを日頃から考えて欲しいことを再度願いながら、この原稿の終わりしたいと思います。

「私と読書
～ある作家とのつきあい～」

出納係長 森原 良治

皆さんには、一生つきあえる作家がいますか？
私が、この人ならと長くつきあっている（作品を通してだけです）作家は、森村誠一氏です。



きっかけは、21年ぐらい前、大学（夜間）の心理学の授業で森村氏の「精神分析殺人事件」を先生から薦められ、読み始めてからです。推理小説といって、ほかにはできません。地理や経済や医学等といった知識も、必要とされます。興味を持たば作品の中身からいろいろな勉強ができるのです。特に短編推理は、いいですね。一気に読めて、作者の技巧（トリックやアリバイくずし）が、見事に濃縮されておもしろいと思います。

作家をよく知るためには、その人のエッセイ集を読むことです。経歴や趣味そして人生論・愛情論・小説感等かなり素直に描かれているからです。それで、親近感も生まれてきます。また氏の推薦する推理もの、ハード・ボイルドもの等、例えば、江戸川乱歩、松本清張、高木彬光、笹沢左保、大藪春彦らの作品群もこれを機に読みあさり、私のジャンルを選ばぬ乱読の始まりとなったのです。そして、ますます私は、雑学的人間へと移行していったのです。大の映画好きもその延長でしょう。

氏の小説には、必ずある詩がモチーフになっており、それを読むのも楽しみの一つです。かつて映画になり話題となった「人間の証明」では、西条八十の「母さん、ぼくのお帽子 どうしたでせうね？」が、テーマ詩となっています。「野性の証明」「青春の証明」にもテーマ詩がありますので、読んで感じてください。

これから、作家と一生つきあおうと思うなら、できたら同年代の人を選ぶ方がよいかも知れません。人生には、それぞれ入学、卒業、就職、結婚等様々な転機があり、自分と自分と共に生きる作

家についても同様です。

作品を読んでみるとその作家の心情や感情、又、強い意気込みを感じたり、その人の転機で作風が変わったことに気づくこともあります。読み手の自分にも起伏があり、作品の感じ方もその時どきで違ってきます。自分と作家の境遇を比較しながら、作品と接することはおもしろいですよ。

作家も同じように年をとっていきます。いつまでも元気で私を楽しませてくれる作品を書いてくれることを願っています。

最後に、前述した「青春の証明」のテーマ詩を皆さんへ贈ります。

「サンシャイン・オン・マイ・ショルダ―」

(ジョン・デンバー)

太陽を背に受けて幸せにひたる
太陽が目にしみて悲しみをさそう
太陽が水面にくだけてきらめきわたる
太陽はいつも私を高みへいざなう

きみに与えられる一日があるのなら
今日のこの日を与えたい
きみのために歌える歌があるのなら
今、この気持を歌った歌を歌いたい

きみに話をしてやれるのなら
きみに微笑ませる話をしたい
きみのために祈りがささげられるのなら
いつも太陽をと祈りたい

太陽はいつも私を高みにいざなう
太陽はいつも



呉高専OPACが完成しました

☞ 呉高専図書館では、平成8年10月末より次のようなサービスを開始しました。

1. 図書館ホームページをオープン!

2. OPAC (WWW 版) の運用開始!

3. 外国雑誌目次情報サービス(試行)を開始!

OPACとは、オンライン蔵書目録検索(Online Public Access Catalog)のことです。ネットワークでつながったパソコンならどこからでも、呉高専で所蔵している図書・雑誌を探ることができます。

また、長岡技科大附属図書館の外国雑誌目次データベースを利用して、約14,000タイトルの外国雑誌の最新目次情報を見ることができるようになりました。ただし、このサービスは全国の高専を対象にしていますので、利用は学内の利用者に限られます。

さらに、図書館ホームページを呉高専ホームページ内に作成し、図書館ホームページにアクセスすればOPACや外国雑誌目次情報サービスを利用することができるようになりました。

まず、呉高専のホームページ <http://www.kure-nct.ac.jp/>
にアクセスして、図書館をクリックしてください!

図書館にもOPAC検索用端末を備付けていますので、
どしどし利用してください!

図書館ホームページについて

★図書館概要

ここをクリックすると、呉高専図書館の蔵書冊数などをみることができます。

★OPAC（呉高専所蔵図書・雑誌目録）

ここをクリックすると、呉高専所蔵の図書や雑誌をタイトルなどから検索できます。

※なお、研究室所蔵の図書・雑誌の所在表示は「機械工学科」のように学科名までしか表示しません。

研究室名を知りたい方は、図書係にお問い合わせください。

★外国雑誌目次情報データベース検索（校内用サービス）

ここをクリックすると、長岡技科大附属図書館の外国雑誌目次データベースへアクセスして、必要な雑誌の最新目次情報が見れます。

★その他 国立国会図書館、他高専・大学のOPACなどへリンクしていますのでご利用ください。

OPAC（WWW版）について

- ①検索方法については LINUS/U の文字画面を下にスクロールし、**検索の例** をクリックすればできます。
 - ②検索画面は、**簡易検索** 書名、著者名、キーワードなどから検索する、と
詳細検索 書名、著者名、キーワード、出版年、分類（内容）、ISBNなどから検索する、のいずれかを選択できます。
 - ③検索する場合、表示件数（デフォルトは10件）、検索種類（デフォルトは和図書）となっていますので注意してください。
 - ④入力エリアにキーを入力し、**検索開始**をクリックしてください。
 - ⑤該当する書誌がヒットすれば、画面上部の簡略書誌画面に一覧が表示されます。
見たい図書（雑誌）名をクリックすれば、その図書（雑誌）の書誌所在情報が表示されます。
- (注)図書館備付けOPAC検索用端末は、WWW版ではありませんので、利用の際には備付けのマニュアルをご覧ください。
- 利用の申込み、利用方法などわからない場合は、窓口の係員にお尋ねください。

外国雑誌目次情報サービスについて

- ①詳しい検索方法は、「諸々の設計仕様はここ」をクリックすれば表示されます。
利用方法などわからない場合は、図書係までお尋ねください。 内線（8406）

編集後記

インターネットを通しての情報収集がますます充実してきている。これまでの図書館という概念が急速に変貌しつつあることを実感している。図書委員会でも、最近CD、LDなどのジャンルの充実の必要性を認識している。学生、教職員が利用できる図書の充実は勿論であるが、本号を編集するにあたって幅広い多様性のあるニーズへの対応を一層はからなくてはならないと痛感した。

（図書館長補 田邊 達雄）

新 着 図 書 10 選

「人生、惚れてこそ」

米長 邦雄・羽生善治著 (クレスト社)

将棋界の重鎮、異端児、天才と言われている米長さんと今年25才で前人未到の七冠を達成した羽生さんの対談をまとめたもの。師を越えるため師に反抗した米長、勉強以外にやることがあると羽生、人間の生き方の指針を話し若者に心のより所を示した肩の凝らない本である。

(若宮 正明記)

「てんとう虫が走った日」

桂木 洋二著 (グランプリ出版)

先日、高専の近くで深紅のてんとう虫とすれ違った。思わず振り返ってしまった。というのも表情のないはずの鉄の魂が笑っていたからです。ちょっと疲れているのか腫れぼったい瞳、笑いすぎたのかむき出しの出っ歯、はいつくばった10(と一)インチの足。この虫は君たちの生まれるずっと前、スバルにて昭和33年3月3日に生まれました。その誕生の物語が本書に記されています。

(野村 高広記)

「Macintosh の上手な使い方教えます」

MuON 選抜著 (技術評論社)

マックを文具の一つとして使っている学生には是非手元に置いておくと便利な一冊です。ちょっとした疑問やハード、ソフト、通信、裏技など丁寧に説明されています。また章末のこれまでの機種の特長一覧表も見逃せません。ただし、最新機種は載っていません。

(野村 高広記)

「コンピュータでみる固体の中の電子

ーバンド計算の基礎と応用ー」

和光 信也著 (講談社)

半導体などの諸性質を知るためには固体物性学の中の基本的な理論の中の一つであるバンド理論の理解が必要である。本書では簡単な単体金属の結晶についてバンド計算を実際に行いながら結晶

中の電子状態をバンド理論の立場から理解することに主目的がおかれている。量子力学の初歩程度の知識があれば十分理解できるよう配慮されているので、電子状態について興味ある学生は是非目を通して欲しい。

(植田 義文記)

「集成材建築ー木造建築の新しい潮流ー」

建築思潮研究所編 (建築資料研究社)

広島県府中市に昨年完成した体育館「ウッドアリーナ」は、50m四方の木造シェル構造で、広島県初めての木造の大建築である。木材は、鉄に比べ強さは1/5であるが、比重は1/10と軽いので大きな屋根を作るのに適している。集成材は木材を板に製材して、節や割れなどの欠点(きず)を除いた後、強力な接着剤で、張り合わせて作られたものである。これが最近、大建築物や、橋などに用いられている。本書は、これらを写真で紹介したものである。接合部のディテールなども、建築学科の学生にとっては興味深い。

(福原 安洋記)

「世界の建築家 581人」

ギャラリー・間 編・企画 (TOTO出版)

昨年12月に「ギャラリー・間」がまとめたもので、内容は世界を10ブロック、59の国と地域に分けて、現在活躍中の建築家(1935年以降、生まれ)581人を取り上げ、一人一ページの割りりで、紹介文と数枚のカラー写真を添えてコンパクトにまとめられている。日本からは広島県在住の村上徹氏、小川晋一氏をはじめ、50人が紹介されている。

この本を見ていると、建築作品を通してそれぞれの建築家を持つ国民性とか民族性、さらに感性の違いが感じられる。それに簡単には見に行くことが出来ないような、遠い国の作品に巡り会えることも楽しい。

(岡本 二郎記)